

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年7月30日

【評価実施概要】

事業所番号	4570300550		
法人名	株式会社 悠隆		
事業所名	グループホーム「牧水苑」		
所在地	宮崎県延岡市北小路8番地10 (電話) 0982-26-5115		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成20年6月19日	評価確定日	平成20年7月30日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

五ヶ瀬川沿いの元ホテルであった建物を改装したホームであり、山や川、市街地が眺望できる。構造上不都合と思われる部分も職員の創意工夫でうまくカバーされている。3階、4階、5階と3ユニットそれぞれの特徴があり、各ユニットとも良くまとまっている。また、良い意味でのユニットごとの競争もある。ホーム長・管理者と職員および職員同士の信頼関係が強く、職員にとって働きやすい、働きがいのあるホームという印象を受けた。向上心も篤く、利用者とともに暮らすという意識が強く感じ取れる。併設施設もあって多様な支援を提供できるため利用者の安心感も大きい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4） 施設の立地条件から地域との交流が飛躍的に進展することは難しいが、地区会への加入を検討したり近隣の保育所と交流を継続するなど、地域に根ざしたホームを目指して努力がなされている。利用者や家族の要望の収集や同業者との交流なども進められている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 時間をかけて職員全員で取り組み、話し合う中で新たな視点を見いだすなど評価をサービス向上のため積極的に活用している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） ホームの運営状況や利用者の状況報告、制度改正の方向など運営推進会議の内容を全職員に周知しその改善策を話し合い、次回の会議に報告している。外部の意見や視点を知ることによって職員の意識が向上している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 意見や要望が出しやすいよう意見箱を設置した。寄せられた内容については早急に対応策を検討し改善するようにしている。
重点項目③	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
重点項目④	地区の区長さんが定期的に回覧を持って訪問してもらっている。地域の情報を集め、行事や活動に参加することを計画している。防災訓練には地域の消防団に協力してもらっている。

【情報提供票より】（平成20年5月1日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和・平成13年3月16日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	26 人
職員数	23 人	常勤14人, 非常勤9人, 常勤換算6.83人	

（2）建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	5階建ての 3～5階部分		

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	17,000～20,000 円	その他の経費（月額）	実費 円	
敷金	有（ 円） 無			
保証金の有無（入居一時金含む）	有（ 円） 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	120 円	昼食	240 円
	夕食	240 円	おやつ	66 円
	または1日当たり 円			

（4）利用者の概要（平成20年5月20日現在）

利用者人数	25 名	男性	2 名	女性	23 名
要介護1	5	要介護2	8		
要介護3	6	要介護4	4		
要介護5	1	要支援2	1		
年齢	平均 歳	最低 歳	最高 歳		

（5）協力医療機関

協力医療機関名	早田病院、医療法人千隆会田中病院、西階クリニック
---------	--------------------------

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	立地条件などを踏まえ、地域の中で利用者を支えていく理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時あるいは折に触れ説明し確認している。日々の関わりの際にも常に意識するよう心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区会に加入を申し込み、区長さんに回覧を持って訪問していただいている。また、地域の保育所と定期的に交流の機会を設けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に職員全員で時間をかけて取り組み、改善点を積極的に話し合っている。自己評価および外部評価をサービス向上に生かそうと努めている。		

宮崎県延岡市 グループホーム「牧水苑」

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議録を作成し、内容を職員に伝えて改善点を話し合い次回の会議で報告するなどサービスの向上に生かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への参加はもとより、積極的に担当者のところへ直接出向き情報の交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に便りを送り状況の報告を行っている。来訪時にはその都度、あるいは電話で随時様子を知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時などにこまめに意見を聞くようにしており、その内容を職員に伝え対応に努めている。また、意見箱を設置し積極的に意見の収集を行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の異動は必要最小限にとどめ、やむを得ない場合にも引継ぎを入念に行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設施設と共催で研修を行ったり、外部の研修にも計画的に参加している。また、研修内容の報告を行い周知を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県北グループホーム協議会に加入し、その役員を勤めるなど、自らネットワークを作り情報交換に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前の訪問などを行い、徐々に馴染めるようにしている。やむを得ずいきなりの利用になった場合には、家族に多くの来訪を依頼するなどの工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が「一方的な介護する側」でないことをよく理解している。利用者から教えてもらうことが多く、学び、ともに暮すという意識を持っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表情などからその思いを把握するよう努めている。また、日々の関わりの中で鍵になりそうな言葉を聞き漏らさないようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人および家族の意向や意見を取り入れ、活発に意見交換しながら介護計画を作成している。	○	家族のカンファレンス参加を推進していただきたい。家族の関わりを深める良い機会と思われる。時間的な制約など課題もあるが、粘り強く進めてほしい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画を意識した記録を行い定期的に見直している。また、状況の変化などの場合には、その都度見直しを行ったり新たに作成したりしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院の協力により医療面での支援が受けやすい。また、併設施設との連携により住み替えなどの要望にも対応できる体制がある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人および家族の希望するかかりつけ医である。特に無い場合はホームの協力医が診察する。原則ご家族による受診付き添いとしているが、場合によってはホームで対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	対応方針を定め、共有している。入居時のもともとより状態の変化があるごとに説明を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	礼節をわきまえた言葉かけがなされている。トイレへの誘導も個別にさりげなく行われていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れはあるが、それにとらわれることなく個々の状況やペースに応じた支援がなされている。		

宮崎県延岡市 グループホーム「牧水苑」

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛付け、配膳、片づけなど利用者も一緒に行い、家庭的な食事風景である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則週3回、午後に入浴を行っている。100%の対応は困難だが、シャワー浴などできる限り希望に応じるよう努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者個々の生活歴がしっかり把握されている。それぞれにできる仕事を頼み、そのたびに職員から感謝の言葉が伝えられている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節の変化に合わせて外出したり、併設施設の売店に出かけるなどの支援がなされている。	○	建物の構造上エレベーターを使っての移動で困難な面はあるが、建物外周へのちょっとした気軽な外出が日常的にできるよう支援してもらいたい。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の構造から非常階段にやむなく施錠しているが、職員は鍵をかけることの弊害を十分認識しケアを行っている。		

宮崎県延岡市 グループホーム「牧水苑」

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設施設とともに地区消防団の協力を得て防災訓練を行っている。	○	夜間を想定して全員の避難訓練を実施してもらいたい。そのことでいろいろな課題が見えてくると思われる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の食事摂取量などをチェック表に記録し職員が把握できるようにしている。体重も定期的に測定している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾り付けや雰囲気や暖かくするのれんなど、落ち着いて過ごせるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の状態に合わせて使い慣れた生活用品や装飾品を配置し、落ち着いた雰囲気である。		

※ は、重点項目。